

=====

THE VEDANTA KYOKAI

日本ヴェーダーンタ協会の最新情報

2004年2月 第2巻 第2号

<http://www.vedanta.jp/newsletter/2004/009/009Feb04.pdf>

(PDFファイル・英語バージョン)

=====

## 目次

- ・かく語りき 聖人の言葉
  - ・今月の予定
  - ・2003年クリスマスイブ
  - ・今月の思想
  - ・1月の例会
  - ・覚えておきたいお話
  - ・カルパタルと元旦
- 

## かく語りき 聖人の言葉

「人は、息子が授からないと言っては涙を流し、富が増えないと言っては心配に身をやつす。ああ、それなのに、神の御姿が見えないからと嘆き悲しむ者はいつたいどれほどいるだろう。実にわずかではないか。まさしく、神を求めて涙を流す者こそ、神を得ることができるのだ。」

(シュリ・ラーマクリシュナ)

「この目で神を見ているつもりで神をあがめなさい。あなたが神を見ないなら、神があなたを見ることはないからだ。」

(預言者マホメット)

---

## 2月行事

### ・生誕日

スワミ・アドブターナンダジ 2月6日

シヴァラトリ 2月18日

シュリ・ラーマクリシュナ 2月22日(協会の生誕祝賀会は3月21日です)

### ・協会での催し物

例会 2月15日(日) 11時

---

## 2003年クリスマスイブ

私が逗子駅に着いたとき、夕闇がすでに近づいていました。暗くなり始めた空

を背に、協会の立つ丘の頂は夕日で赤く染まっていました。正面のドアに近づくと、中のロビーに飾られたクリスマスのディスプレイが、ガラス越しににぎやかな光を放っています。2階に上がると、集会室には祭壇がしつらえられており、いつもは礼拝室にあるイエス・キリストの絵がその上に飾られていました。写真には花輪がかけられ、花束や果物、お菓子などが供えられていました。また、イエスの写真の下には、聖母と御子の小さな写真も飾られていました（「ラマクリシュナの福音」にある絵の複製です）。

7時になりクリスマスイブの礼拝が始まりました。アラーティに続いて「諸人こそぞりて」や「神の御子は今宵しも」などの賛美歌を歌い、新約聖書のマタイ伝第13章を英語と日本語で朗読しました。スワミ・メダサーナンダの講話は、世界中にあるヴェーダーンタ協会（ラマクリシュナ僧団）でクリスマスイブを祝うという話から始まりました。近代インドの偉大なる預言者・シュリ・ラマクリシュナは、キリスト教を学びキリストの姿を見ています。また、ラマクリシュナ僧団の創設は、師ラマクリシュナが1886年に亡くなり弟子らがサンニャサ（放棄）の儀式を行ったのがきっかけですが、そのサンニャサが行われたのがたまたまクリスマスイブでした。

スワミは続けました。「イエス・キリストの教えは今日も生きています。心、魂、知性のある人々がいる限り、平和は必要とされるでしょう。魂がある限り、霊性へと目覚めねばなりません。預言者は何度でも現れます。預言者らの生き方や教えは人類の宝であり、普遍の真理を独占することはできません。あらゆる人、あらゆる宗教がこの真理を自分のものにする事ができるのです。預言者はみんなのものです。誰か一人が自分だけのものにする事はできません。預言者は全人類の財産なのです。」そして、スワミ・ヴィヴェーカーナンダについて話しました。西洋が平和の使者・愛と慈悲の象徴であるイエス・キリストを西洋だけのものだと主張していた時代に、スワミ・ヴィヴェーカーナンダは、『預言者は全人類の財産である』と繰り返し言っていました。19、20世紀は新たな暴力と憎しみが生まれ、世界規模の戦争が勃発した時代です。スワミ・ヴィヴェーカーナンダは、西洋の聴衆に向かってキリストの教えに帰るよう説いたのです。新約聖書を学びイエスの教えに従うように言ったのです。

「私たちは聖書のたとえ話の中に、愛と慈悲の教えを何度見出したことでしょうか。イエス、ブッダ、シュリ・ラマクリシュナの教えは、どれもみな同じです。問題は、これらの教えを理解する側の人間の力不足にあるのです。」スワミは、ウパニシャッドに同じ問題が指摘されていることを挙げました。ウパニシャッドには次のように書いてあります。『多くの者は教えを聞く機会がない。聞く機会のある者もいるが、彼らは教えに従わず、従おうとした者もほとんどうまくはいかない。』イエスは自分の教えを理解できる者を弟子に選び、たとえ話を通して教えを説きました。スワミは、こうしたたとえ話が説く教えはどんなレベルの人でも理解ができ、見聞きするたびに違う気付きがあるので何度も繰り返し触れる人もいると言いました。教えを理解する力は、知性ではなくむしろ純粋な心に育つのです。

「イエスは、『神の国に入りたいのなら、生まれ変わらねばならない』と言いましたが、これは霊的に生まれ変わることを意味しており、心と体を清めたときに起こる変化を言っています。人は感覚をコントロールするようになると、神への深い信仰心が育まれていきます。世界は、霊性の成長を通じてもっともこのような調和を必要としています。『目には目を』という復讐心ではなく、許しや愛、慈悲という理想の実現が必要なのです。私たちは一つの同じ人類であり、存続も滅亡もみな一緒に運命共同体なのです。私たちは、一人一人の持つ責任に

目を向けるべきです。平和と調和の中で本当に暮らしたいと思うなら、言葉だけでなく毎日の生活の中で、イエスやブッダ、シュリ・ラーマクリシュナの教えを  
実践せねばなりません。」  
(ロニー・ハーシュさん)

---

## 今月の思想

幸福の扉は、一つ閉まると別の扉が開く。しかし私たちは往々にして、閉まった  
ドアをいつまでもながめていて開いている扉に気付かない。  
(ヘレン・ケラー)

---

## 1月の例会

1月18日(日)の逗子の例会では、スワミ・ヴィヴェーカーナンダの142回目の  
生誕祝賀会を行いました。午前はスワミ・メダサーナンダの講話「スワミ・ヴィ  
ヴェーカーナンダのCentral Message(御言葉の本質)」でした。Central Message  
すなわち福音とは魂の神性のことです。スワミは「神は外在すると思われていま  
すが、私たちは神が内在すると考えるべきです。神は私たちの中にいるのです」  
と言いました。「魂は無限です。実存であり、知識であり、至福であり、絶対な  
のです。一つ一つの魂が永遠という空にちりばめられており、この永遠という空  
が主である神なのです。この『魂の神性』という真理は、かつては、森や洞窟、  
修行場などにいる霊的求道者、すなわち限られた一部の人たちだけのものでした。  
しかし、スワミ・ヴィヴェーカーナンダは、この福音をすべての人々に伝えること  
を自分の使命とし、インドだけでなく全世界の人々に伝えようと決めたのです。」  
スワミは人々が宗教の定義を聞きたがることに触れ、スワミ・ヴィヴェーカーナン  
ダはこの点に関しても優れた学者であり、覚醒した最高位の魂であったと言いま  
した。宗教とは何かという問いに対するスワミ・ヴィヴェーカーナンダの答えは次  
のようなものでした。「宗教とは、人の中にすでに在る神性の表れである。」さ  
らに、神性とはどのような形で表れるのかという質問に対しては、「『気付き』  
である」と答えたそうです。

次にスワミは、仏教とキリスト教の魂の概念に見られる根本的な教えについて  
話しました。仏教では、魂は永遠ではありません。魂は続いてはいくのですが、  
同じではないのです。同じように見えても同じではない、というのはろうそくの  
火をリレーしていくことに似ています。一つのろうそくで次のろうそくに火をつ  
けると、次のろうそくに移された火は、前のろうそくの火と同じように見えま  
すが同じではありません。一方、キリスト教の教えでは、魂は罪から生まれるた  
め私たちは罪人であるとされています。そして、イエス・キリストに帰依するこ  
とが天国に昇る唯一の方法なのです。

こうした概念は、魂は永遠で常に純粋な存在であると言い切る教えとは違うと、  
スワミは言いました。ウパニシャッドでは、次のような言葉をよく見かけます。  
「ああ、不滅の息子よ。」「Tat twam Asi (Thou Art That. 『汝は‘それ’なり』  
)

」マクロレベルのブラフマン(神)とミクロレベルの個々のジヴァ(魂)も霊  
的に同一であると言えるでしょう。その本質は同じ性質です。スワミ・ヴィヴェー

カナダは、私たちに問いかけ、考えさせます。「なぜ私たちの外に神を求めるのか」「なぜ私たちは弱いと考えるのか」と。悲しいときには、自分が喜びの泉であることを思い出さねばなりません。束縛を感じる時には、私たちは常に自由であることを思い出さねばなりません。自分は有限の存在、限界のある存在であるという考えは、自分が肉体と感覚の存在であると考えている結果です。私たちが無知であるうちは、マアヤの働きで王子である自分を乞食だと考えてしまいます。本当の私たちは、純粋で永遠で至福に満ちているのです。今の私たちは、羊とともに育てられたライオンと同じです。ライオンは羊のようにメーメー鳴き、他のライオンの襲撃に逃げ回ります。池に映ったわが身を見て初めて自分がライオンであると気付くのです。私たちも自分の真の性質に気付けば変わります。スワミは、この「気付き」に必要な3つのステップについて話しました。まず福音（教え）に耳を傾けること。次に知性でその福音を理解すること。そして、常に真理に身を置き、真理を自分のものにするまで福音に集中すること。知性で理解することと自分のものにするものの違いは、火は熱いよ、やけどするよと教えられた子供と、火の中に自分の指を入れたことのある子供の違いと同じです。最後にスワミは、「神性の持つ強さの福音は、すでに魂の中にある」というスワミ・ヴィヴェーカナダの言葉を挙げ、私たちに「真の自分であれ」と強く求めました。

午後のセッションに残った人たちは3時ごろ再び集会室に集まり、Q&Aが始まりました。午前の講話で出てきた3つのステップについての質問が出、そこから、霊性を高める訓練としてバクティヨガ、ジュニャーナヨガ、ラージャヨガを行うべきだという議論になりました。スワミはここで注意をされ、神を求めるのに公式も秘訣もなく、あくまで各人の努力次第であり、結局は神の愛によるものだと言いました。また、仏教のある流派の教えに関する意見で、自分の自由を得る前にまず人の自由を得る助けをするほうが優れた考えではないかという質問もありました。スワミは、この考えは実に素晴らしいものであり、神の愛を求め、手にすると、このような命（めい）を受けることもあるが、そのような天命にそぐう魂はまれであると言いました。まず初めに必要なことは、神を求めることなのです。

当日の写真

<http://www.vedanta.jp/multimedia/image/sr200401/index.html>

---

忘れられない物語

王の識別力

クリシュナ神は彼の王たちの識別力がどれほどのものか試してみたくなり、ある日、ドゥリョダーナという王を呼びつけました。ドゥリョダーナは残忍で強欲なことで王国中に知られており、臣民はみなおびえて暮らしていました。クリシュナ神はドゥリョダーナ王に言いました。「お前に頼みがある。世界中を旅して真に善良な者を見つけきてほしい。」ドゥリョダーナ王は「はい、神様」と答え、言いつけにしたがって真に善良な者を探しに行きました。王はたくさんの人と会って話しをしました。ずいぶんと時がたち、王はクリシュナ神の所に戻ってきてこう言いました。「神様、仰せに従って私はたくさんの人と会い、真に善良な者を求めて世界中を捜し歩きました。でも、そんな者はいませんでしたよ。みんなわ

がままでよこしまな奴ばかりでした。神様の探していらっしゃるような善良な者などどこにも見つかりませんよ。」

クリシュナ神はドゥリョダーナ王を下がらせ、次にダルマラージャ（ユディスティラ）という王を呼びました。ダルマラージャ王は寛大で慈悲深い王として有名で、王国中の臣民に愛されていました。クリシュナ神は言いました。「ダルマラージャ王よ、お前に頼みがある。世界中を旅して真に邪悪な者を連れてきてほしい。」ダルマラージャ王も言いつけに従い旅に出て、たくさんの人と会って話をしました。ずいぶんと時がたち、ダルマラージャ王は戻ってくると、クリシュナ神にこう言いました。「神様、残念なお知らせです。私はご期待に添えませんでした。道を誤った者、悪事を働く者、無知な行いをする者はいましたが、真に邪悪な者はどこにもいませんでした。みんな欠点はあるけれども、本当は善い者たちばかりでした。」

（「Early Buddhist Tradition (Soul Food 出版、J. Kornfield、C. Feldman 共著)」より）

---

## カルパタルと元旦

1月1日（木）、逗子センターでは毎年恒例のカルパタルを行い、元旦を祝いました。11時50分に信者や家族・友人らが礼拝堂に集まり、スワミ・メダサーナンダの短いお話とヴェーダのマントラを聞きました。続いて、「シュリ・ラーマクリシュナの福音」を日本語と英語で朗読し、ホーリーマザー・シュリ・サラダデヴィの教え、ブッダの教え、聖書を読み、黙想しました。

ブラスード（昼食）は12時半から始まり、皆スワミと共に、シュリ・ラーマクリシュナの直弟子らの逸話などを話し、打ち解けた会話を楽しみました。2時になると、少人数で大仏を参拝しに隣の鎌倉市へ出かけました。その後、スワミは数人で雪ノ下カトリック教会、鶴岡八幡宮へと足を伸ばしました。八幡宮は参拝に訪れた数千人の人で混み合っていました。

## 当日の写真

<http://www.vedanta.jp/multimedia/image/kalpataru2004/index.html>

---

発行：日本ヴェーダ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428 Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)

[KENB009J]